

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	群馬県	市町村名		大学名	
派遣日	令和3年1月25日（月曜日） 13:30～16:00				
実施方法	派遣 / 遠隔				
派遣場所	群馬県庁舎241会議室				
アドバイザー氏名	山梨県甲府市立大田小学校 教諭 今澤 悌				
相談者	群馬県教育委員会				
相談内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語と教科の統合学習の授業づくりについて ・在籍学級での学びと巡回型日本語指導教員（以下、JLTと記す。県単で配置）による取り出し・入り込み指導のつなぎ方について 				
派遣者からの指導助言内容	<p>【日本語と教科の統合学習の授業づくりについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉の意味や概念を獲得していない児童生徒に、単純に母国語に訳して教科語彙を教えるだけでは学習の理解には至らない。学習活動を通して学び、考え、表現することで「教科に使われる日本語」と共に「教科の力」が身に付いていく。 ○授業づくりにあたっては、①在籍学級の授業の分析、学習内容の決定、②目標の設定（教科の目標、日本語の目標）③計画、展開の構想、④支援（理解支援、表現支援等）の工夫、のステップで考えていく。 ○②においては、教科の目標を達成するためにはどのような日本語の力が必要かを考え、目標にする語彙、表現を具体的に決めておくことが大事である。 ○③においては、在籍学級の授業の分析を基に、取り出し指導（先行、並行、後行）にするのか、担任と連携しながらの入り込み指導にするのかを考え、「日本語と教科の統合学習」の授業を位置付ける。 ○④においては、実物・写真等の提示、工夫されたワークシート等の理解支援や、表現モデルの提示、対話で児童生徒の考えを引き出して文章化する等の表現支援といった具体的な手立てを、学習活動の中において有効に使うとよい。 ○例えば、国語科の書く学習において、文章構成が視覚化されて理解しやすい、表現モデルを参考にしながら安心して書けるワークシートを考えて活用してみる。 <p>【在籍学級での学びとJLTによる取り出し・入り込み指導のつなぎ方について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○取り出し指導、入り込み指導のどちらにおいても、「自分で考える」ための支援、「学習活動に参加し、思考を促す」支援が大事である。 ○在籍学級の授業において、日本語指導担当教員と在籍学級・教科担任との連携によって、以下のような支援を行うことができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉のユニバーサル・デザインを意識し、授業で使う言葉に配慮する。 ・本時の目標に関係のない言葉の負荷を下げる。 ・具体物や絵、図、表など、言葉以外の情報を豊富にする。 ・大切な言葉、発問、キーワード等を板書やカードで視覚化する。 ・個に合った課題や活動を準備する。（ワークシート、ペアワーク等） ○日本語指導担当教員は、在籍学級・教科担任と連携し、上記のような支援が在籍学級において行えるよう、取り出し指導における先行学習で日本語と教科の統合学習を行う。 ○取り出し指導における先行学習で使用した教材、ワークシート等は、在籍学級・教科担任と共有し、在籍学級での授業においても使用してもらうことで、在籍学級での学びにつなげることができる。 				

	<p>○取り出しにおける先行指導を行うことによって、在籍学級における児童生徒の「分かった」「自分の考えが伝わった」との成功体験につなげていく。</p> <p>○在籍学級における入り込み指導においても、上記のような支援を在籍学級・教科担任と連携しながら、教材やワークシート等を準備して支援にあたることができる。</p>
<p>相談後の方針の変化、今後の取組方針等</p>	<p>○在籍学級の授業を児童生徒にとって生きた学びの場にしていくために、今どのような日本語を指導すべきか、在籍学級ではどのような支援が必要なのか、ということについて、教員間で連携を図りながら授業改善につなげていく。</p> <p>○今回の研修において学んだことを、JLTの配置校等において広く周知していく機会を設けることによって、散在地域における学習支援のノウハウを蓄積していく。</p>

1枚にまとめる必要は、ありませんので、詳細に記載願います。なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。